

正法寺新聞

第2号



2013年1月発行

住職継職披露法要・正法寺開基400年慶讃法要厳修

—特集号—

発行 真宗大谷派 正法寺

長崎県大村市杭出津2-708 0957-52-2247

新年あけまして
おめでとうございいます

本年もどうぞ

よろしく

お願い

致します



住職継職披露法要
開基四百年慶讃法要

正法寺では九月二十八・二十九日に二十代住職から二十一代住職への継職法要及び、正法寺開基四百年慶讃法要を厳修致しました。たくさんの御門徒の方々にご参詣いたさき、大きな節目となる法要を無事お勤め出来ましたこと、心のよりお礼申し上げます。今回の新聞ではこの度の法要を中心にお伝え致します。

《新住職・新坊守紹介》

○新住職（長野道英）

新年明けましておめでとうございます。継職法要の折にはたくさんのお参詣を賜りましたこと、まずは御礼申し上げます。また総代・婦人会・講頭の方々ははじめ、多くの方々に御尽力を賜りましたこと重ねて御礼申し上げます。

法要一日目、満堂となった本堂にて、阿弥陀如来に法灯を受け継いでいくことを誓いました。それから3カ月が経ちましたが、まだまだ不慣れなことばかり、前住職をはじめ多くの方々に支えられながらの毎日であります。四百年という歴史を持つ正法寺です。その歴史を護持してこられた歴代の住職、並びにそれを支えてこられた御門徒方の願いにこたえられるように、日々精進してまいりたいと思っております。今後とも皆様方のご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

○新坊守（長野文）

この度、新坊守となりました長野文です。九月の法要では、たくさんの方にご参詣いただき、また総代の皆様はじめ婦人会・講頭の方々には大変なお力添えをいただき、本当にありがとうございます。まだまだ新米の坊守、南無阿弥陀仏をいたたく身としても歩みの浅いわたくですが、引き受けたこの場所に精一杯尽くしてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



住職継職披露法要
開基四百年慶讃法要

九月二十八日(金) 住職継職披露法要

九月二十九日(土) 開基四百年慶讃法要

記念企画／タテタカコライプ

◎御講師・・・中川正法師(筑紫野市)



お天気にも恵まれ、一日目は四百人の方々に御参詣いただきました。本堂には入りきれず、会館にてモニター中継もされ、盛大な法要となりました。「私たちは何を受け継ぎ、そして私たちは何を残していけるのか」

という中川先生の御法話も心静かに聞いて頂きました。たくさんのご門徒の方に様々な係を担当していただき、当日の進行も思いのほかスムーズに進み、無事二日間の法要を終えることが出来ました。



御講師の
中川正法師。

満堂の本堂。写っていない廊下にも人がおられました



モニタールーム(門徒会館)にもたくさんの方が座られました。



二日目。新住職として初めての挨拶。少々緊張気味です・・・



一日目の終了後スタッフの方々と。皆様、本当にありがとうございました。



二日目。参詣者は百名。すべて椅子席に行いました。

洗 心

洗心婦人会発行

会報 第3号

〈婦人会近況報告〉

九月の継職法要は、婦人会の方々のお力添えが大変な力となり、無事に終えることが出来ました。その様子については、正法寺新聞の方に一緒に掲載しましたので、ここでは婦人会が中心となって行った行事についての報告、今後の予定を載せたいと思います。婦人会に入会はしているが、活動には参加したことがないという方、ぜひ参考にされてどしどしご参加ください。

〈これまでの婦人会行事〉

■ 九月 秋彼岸お齋作り

■ 十月 永代経お齋作り・敬老会

御講師（八女の浄慈寺 島村宣澄師）

■ 十二月

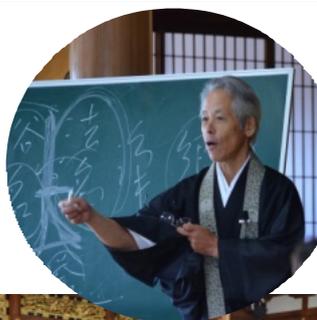
① 正忌・報恩講

お齋作り・おもちつき

② 年始に向けてのおもちつき

〈活動報告〉 「敬老会」永代経法要最終日

毎年十月婦人会主催の敬老会を行っております。永代経に御話に来られた島村先生に御法話をいただき、食事・演芸と和やかな会となりました。



人生は長いとか、短いだけで量れるものですか？と問われる先生



敬老者の前ではいろんな出し物が。住職は黄門様に、新発意は八兵衛になりました。



十二月 ご正忌法要の準備

十二月のご正忌法要は、真宗の仏事の中で最も大切にされる法要です。浄土真宗の宗祖親鸞聖人のご命日にあたる法要であり、報恩講ともいって、親鸞聖人をはじめ、われわれに御念仏を勧めて下さる全ての方に感謝をする法要でもあります。婦人会のみならずご門徒皆様に多く関わっていただきたい法要です。しかし婦人会の方々の御力に頼っているのが現状です。どうか男女問わずたくさんの方に今後は来ていただきたくご報告いたします。



おもちつき



おみがき御奉仕



清掃御奉仕



さて、『正信偈を知ろう』も今回で三回目となります。いよいよ正信偈の本文を解説していきましょう。

歸命 意量 壽如來

南無 不可思議 光

新・住職が語る…
正信偈を知ろう! 第3回

この最初二句は、総讚（そうさん）・歸敬（ききょう）と呼ばれているところです。前回でも少し触れましたが、この「歸命無量壽如來」「南無不可思議光」は共に、「南無阿彌陀仏」と同じものを表現したものに成るんです。

では、私達が普段称えている「南無阿彌陀仏」というお念仏、それにはどういった意味があるのでしょうか。実はこの漢字自体には意味はありません。ん。どういう事かといえますと、まず「南無阿彌陀仏」は、古いインドの言葉であるサンスクリット語の namo-amita という言葉を音写したものです。音写というのは仏

教がインドから中国に渡ってきた時に、經典の言葉を意味ではなく読み方で翻訳したものを指します。要するにナムアーミタというインドの言葉に、中国の漢字を当てはめた当て字ということなのです。

それに対して「歸命無量壽如來」「南無不可思議光」は namo-amita を言葉の意味で翻訳した表現になります。

◆ namo… 歸依する、歸命するの意。

◆ amita… サンスクリット語の amitayus 並びに amitabha の略語。

① amitaayus… 無限の寿命をもつもの

② amitaabha… 無限の光明をもつもの
あらゆるものを救おうと願われる阿彌陀仏には、その功德に2つの側面があります。限りない命は慈悲としての徳をあらわし、不可思議の光明は智慧としての徳をあらわすのです。ですから「南無阿彌陀仏」とは、「限りない慈悲と智慧の仏様に歸依します」といった意味といえるでしょう。しかし親鸞聖人はそれだけの意味にとどまらず、六字の名号にもっと深い意味を見いだされておりますので、それを見ていきましょう。

「歸命」は本願招喚の勅命なり。

これは『教行信証』に述べられる聖人のお言葉です。「歸命とは、本願が私を招き入れるために呼び続けて下さっている命令である」といった意味になります。阿彌陀仏は常に本当のものに気付いて下さい、目覚めて下さいと呼びかけておられる。私がお念仏するのに先立って、阿彌陀如來の方から私を念じて下さっている。阿彌陀仏は全てのものを救おうと六字の名号にまでなられ、私の名を称えてどうぞ救われて下さいと呼びかけられておられる。その呼びかけに気づいて、如來からいただいた念仏を称えていくというのが親鸞聖人のいただきかたでしょう。私自身が救われてほしいと願われていることを自覚し、救われるという事が決定しているという事を喜んでいく。その喜びを表明し如來の徳を讃えていく、正信偈の最初の二句は、聖人のそうした思いが込められたところなのです。



参加してみませんか？

●『長崎教区第3組 婦人会研修会』
 ①テーマ 「えっ！私の隣に居る人仏様？」
 ②日時 2月3日(日)10時より
 ③会場 東本願寺佐世保別院
 ④講師 武宮 真紹 師 (西圓寺)
 ⑤募集人数 各寺 4〜10人
 ⑥会費 六百元

●『長崎教区婦人会一泊研修会』開催

- ①テーマ 「仏法聞いてどうなるの？」
- ②日時 2月26日(火)・27日(水)
- ③会場 「ホテル日航ハウスステンボス」
- ④講師 藤井 理統 師 (西光寺)
- ⑤会費 一二,〇〇〇円

※「長崎教区」とは、長崎県内の真宗大谷派寺院をまとめる組織です。



平成24年の花祭りの様子。婦人会による、お釈迦様の一生を描いた紙芝居。

初参り式／子ども花祭りの お知らせ

毎年5月に婦人会主催「初参り式／子ども花祭り」を行っています。「初参り式」は子どもの誕生を仏様の前で報告し、仏の子どもとなる事を誓う式です。「花祭り」はお釈迦様の誕生をお祝いする会で、ご講師による法話の後、紙芝居・ゲーム等を楽しみます。今年、5月12日(日)に予定しております。詳しい事は、地区の婦人会世話人さんか、お寺の方にお尋ねください。

一坊守の「ちょっとひと言」



法要前の清掃奉仕に参加された事がありますか？「法要のお知らせ」に清掃奉仕の日程が載っています。清掃の後、心の中もすっきりとされた方々皆で、お茶のひと時を楽しんでいます。

●婦人会々報【洗心】では、婦人会に関する寄稿文や、質問・御要望を募集しています。いろんな方の意見を取り入れ、よき会報にしましょう。

●今年度も婦人会学習会(信楽会)では、【書いていて学ぶ親鸞のことば 正信偈】をテキストに学習を進めていきます。毎月二十八日(月)一時三十分、皆様のお越しをお待ちしています。

こちらが使用中のテキストです。正信偈をなぞって書いて、学んでいます。

正法寺にて販売中↓



住職継職披露法要
開基四百年慶讃法要

法要二日目夕方、本堂にてシンガーソングライター・タテタカコさんのライブを行いました。正法寺と同じ真宗大谷派系列の高校を出られたタテさんは、自分の心と向き合う事を大切に曲を作り歌っております。当日はその歌声が本堂に響き渡り、みなさん感動の二時間をすごされました。



～当日の感想より～

- ・自然な作られていない生の歌声、大地の響きのようなピアノの力強さは初めての体験でした。
- ・少し折れていた心に元気をもらいました。
- ・心が洗われ、エネルギーをもらいました。

秋深まる十一月月上旬、有志二十三名で、島根県浜田の顕正寺の幡谷明先生を訪ねる一泊二日の研修旅行をしました。先生には継職法要の御講師をお願いしていました。先生の体調不良の為叶いませんでした。この旅は私どもの方から先生をお訪ねし、ご聴聞させていただく目的で行いました。



金子みすず記念館。



日本海沿岸の町並み。

山陰旅行報告 堀出美智子(婦人会会長)

お慶びに包まれた中、一行は朝6時に出発、往復千キロ弱のバス旅行となりました。山陰の山々は紅葉が一段と深く目に鮮やかで、雨上がりの山に掛る虹の架け橋が何度も現れ、顕正寺に到着。幡谷先生が本堂真正面にお座りになって、「ようこそようこそ」と喜色満面の笑みでお迎え下さいました。本堂での先生の力強い声は真剣で解りやすく、聞法の大切さが伝わってきました。夜の宿では、前住職・坊守に花束と色紙に謝意を書き贈呈いたしました。同朋の輪の結束でした、皆様お疲れ様でした。

法要厳修に寄せて

丹野敏幸(総代)

住職継職・開基四百年慶讃法要の勝縁に組内の法中の方々をはじめ、多くのご門徒の皆様のご参詣を賜り、また総代・講演会及び、婦人会の皆様のご奉仕を頂き、荘厳のうちに終えることができ、厚くお礼申しあげます。

正法寺の永い歴史の中の幾多の先人達の深い願いが、溢れんばかりの本堂の一人一人の座に届いている姿を、御拝の下から仰ぎ見た時、心の中が熱くなり大いなる喜びに満たされるのを感じました。「念仏は我おこしの金の鍬なり」という藤代師の金言を前住職から教えて頂きました。今後は、新任職の願いのもと、念仏の相続と本廟護持に、一日一日と聴聞して参りたいと念じております。



総代の福山さん・丹野さんを始め、講演、婦人会の方々に仏具の「おみがき」奉仕。(9月中旬)

生前法名をいただく
 良き機会です

真宗入門講座（推進員養成講座）

—参加者募集—

今年の九月より、長崎教区第三組（大村・波佐見・佐世保地区）において、真宗入門講座を開催致します。三年間で六回の講義を受ける学習の座です。一〜五回は三組の各寺を回り、本堂にて『歎異抄』をテキストとして半日の学習を受け、最後の六回目に二泊三日で上山（京都の東本願寺へ行き、本山宿坊に宿泊）致します。最後は本山にて帰敬式を受け、法名を頂きます。詳細はお寺にお問い合わせください。



京都の東本願寺



本願寺での帰敬式

◆お寺の行事
 これまで（平成24年7月〜12月）
 これから（平成25年1月〜6月）

12月	11月	10月	9月	8月	7月
御正忌法要 1〜5	秋の親鸞講座 4〜5	永代経法要 20〜24 （永代経最終日） 婦人会主催敬老会	29 開基400年法要 28 住職継職法要 19〜23 彼岸会	盆法要 13〜15	盆法要 26〜28 作上がり
6月	5月	4月	3月	2月	1月
物故者追悼法要 婦人会法要 13	初参り式 子供花祭り 婦人会法要 12	永代経法要 19〜23	彼岸会 17〜21	春の親鸞講座 10〜11	総代講演会 28 婦人会初会 10

※詳しくは『正法寺行事表』をご覧ください。

正法寺近況



残暑厳しい9月上旬、庭木剪定を行いました。いつもより念入りに、クレーン車も入りました。

◇編集後記◇

住職御職・開基4百年慶賛法要特集号、いかがでしたでしょうか。法要予告の第1号、法要報告の第2号、今後の新聞がいよいよ本当のスタートとなると思います。どうぞ皆様のご意見もお寄せください。寄稿文・感想文も随時受け付けております。

（編集責任者・坊守）